

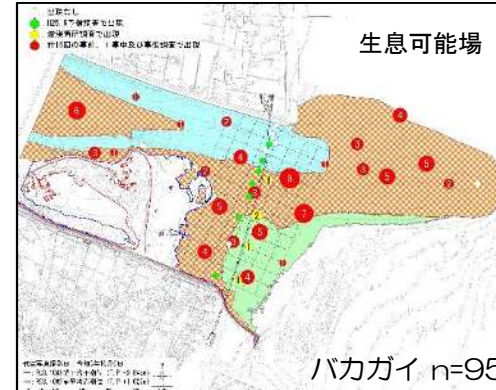
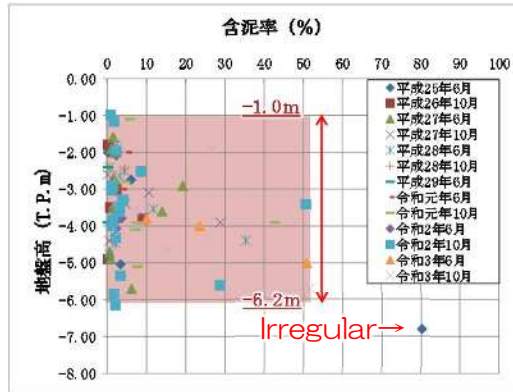
# ■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種のモデル化～



区分1の指標種のモデル化は、区分1が地盤高に関係なく砂質であることから、地盤高のみで生息可能場の予測を行った。

## バカガイ n=95

- T.P.-6.2m~-1.0mに出現
  - 区分1に対して約99.5%の生息範囲
  - 予測した生息可能場での出現数は67地点
- ※H29.6、H30.6、H30.10は出現なし

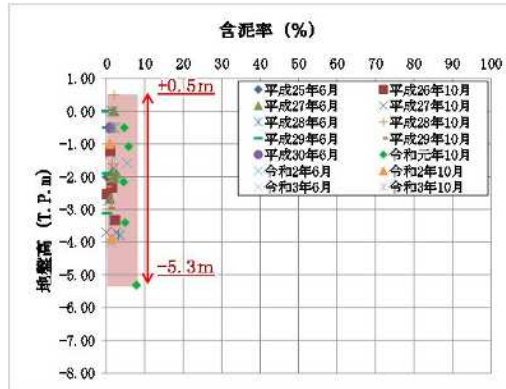


※ハビタット区分1の範囲から各種が出現した地盤高の範囲を抽出

- ①区分1の面積 : 1,905,936m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,897,003m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して99.5%

## フジノハナガイ n=58

- T.P.+0.5m~-5.3mに出現
- 区分1に対して約96.8%の生息範囲
- 予測した生息可能場での出現数は35地点

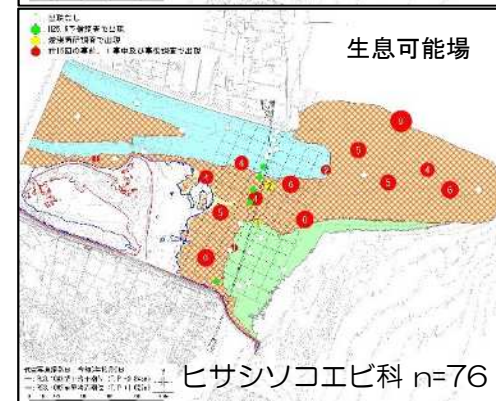
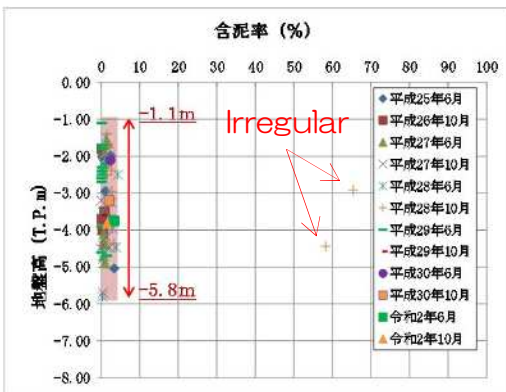


### 貴重種保護の観点より非公開

※注意  
 ・フジノハナガイは潮間帯定量調査でも確認されており、T.P.+0.5mで1個体、T.P.±0mで79個体、T.P.-0.5mで36個体確認されている。  
 ・H30.6、R3.10は潮間帯調査にのみ出現し、H30.10、R1.6の調査では出現が確認されなかった。

## ヒサシソコエビ科 n=76

- T.P.-5.8m~-1.1mに出現
  - 区分1に対して約96.8%の生息範囲
  - 予測した生息可能場での出現数は64地点
- ※R1.6、R1.10、R3.6、R3.10は出現なし



- ①区分1の面積 : 1,905,936m<sup>2</sup>
- ②生息可能場面積 : 1,845,490m<sup>2</sup>
- ※区分1に対して96.8%

